

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">~2022</div> <h1 style="margin: 0; padding-left: 10px;">認知症ケア演習</h1>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	加藤 伸司	

■授業のテーマ

加齢による心理学的変化、認知症のアセスメント、支援方法と支援にあたる態度を理解する。また高齢者を対象とした心理学的研究方法を理解する。

■授業の目的

社会福祉及び福祉心理学領域における高齢者支援の実際を心理学の視点から理解し、アセスメントや援助技法を修得する。また、高齢者に対する心理学的な研究方法を体験的に理解する。

■授業の到達目標

- ・高齢者心理学の領域のこれまでの研究成果を理解し、高齢者の心理学的理解を研究の視点で考えて、説明することができるようになる。
- ・認知症の人に対するアセスメントの技法を理解し、認知症の人を対象にした簡便なアセスメント技法を習得し、応用できる。
- ・認知症の人に対する心理学的援助技法を理解し、認知症ケアの場面に役立つ能力を身につけ、応用できる。
- ・認知症に関連する心理学的な研究の視点がもてるようになる。

■授業の概要

高齢者心理学の取り組んできた様々な課題について基本的な理解を深める。具体的には「加齢の考え方」「加齢による心身の変化」「感覚・知覚機能の変化」「反応の変化」「記憶機能の変化」「知能の変化」「認知症の理解」等について系統的に学び、高齢者に対する心理学的な理解を深めていく。これらのテーマを基本的に理解した上で、認知症の人に対するアセスメント技法や、心理学的援助技法について学んでいく。さらに、高齢者心理学の研究方法について、グループ別のディスカッションを繰り返しながら、高齢者のパーソナリティ研究や、認知機能の研究、認知症ケアの研究、家族支援に関する研究など、具体的な研究計画を作成し、特に認知症ケア研究の具体的方法を体験的に学修し、認知症ケア研究の研究方法を修得していく。

■スクーリングの事前課題（学修時間の目安：12時間）

- ・スクーリングを受講する前に、『認知症ケア研究』の課題レポートを提出してから、スクーリングに出席することが望ましい。またスクーリングまでに、高齢者に対する心理学的アセスメントや援助技法に関する書籍、文献を読み、理解を深めておくこと。
- ・心理学的アセスメントについては、大学から送付される必読図書5)の『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』を事前に学修し、添付されているDVDを視聴しておくこと。

■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	加齢の考え方	オンデマンド
2	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
3	反応時間や反応の種類、注意に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
4	記憶に及ぼす加齢の影響	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
5	知的機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
6	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	オンデマンド
7	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	オンデマンド
8	高齢者に対する心理的支援と心理職の役割	オンデマンド
9	認知症のアセスメント	対面 or リモート
10	認知症の人の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	対面 or リモート
11	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	対面 or リモート
12	認知症の人と当事者に学ぶ	対面 or リモート

■スクーリングの事後課題

次の2つの課題から1つ選択しなさい。

課題1	高齢者に対するアセスメント技法について、自分の興味のあるものを選択し、その使用目的、使用方法、結果の判定方法についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。
課題2	高齢者に対する心理学的援助技法について、自分の興味のあるものを選択し、その実施目的、実施方法、効果についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



アセスメント技法に関しては、特に認知機能検査を中心にまとめた書籍や論文が多い。それらの文献をいくつか読み、その使用目的や使用方法、結果の判定法についてまとめ、自分自身の意見も交えながら考察する。



心理学的援助技法に関しては、一般の高齢者だけではなく、認知症高齢者を対象にしたものも多い。レポートをまとめるにあたっては、様々な援助技法のなかから、自分の興味ある技法の一つを選択し、その実施目的や実施方法、効果についてまとめ、自分自身の意見も交えながら考察する。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング参加とスクーリング事後課題を合わせて評価する。
- ・スクーリング時のグループワーク参加度25%、積極性10%、プレゼンテーション15%
- ・スクーリング事後課題50%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 加藤伸司編 『発達と老化の理解』介護福祉士養成テキストブック10 ミネルヴァ書房 2010
- *2) 加藤伸司著 『認知症の人を知る』(株)ワールドプランニング 2014
- *3) 日本認知症ケア学会編 『認知症ケア標準テキスト 改訂4版・認知症ケアの基礎』(株)ワールドプランニング 2016
- *4) 大塚俊男・本間昭監修 『高齢者のための知的機能検査の手引き』(株)ワールドプランニング 2011
- *5) 長谷川和夫・加藤伸司著 『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』中央法規 2020

参考文献は『認知症ケア研究』を参照してください。